

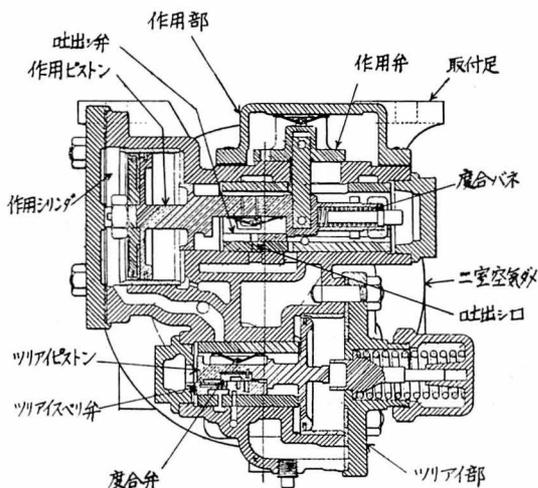
役から引き継がれた現金は、出納役が引継を受けた当日中に出納役名義の預託金口座に預け入れられることとなっている。なおこの銀行利用期間は、分任出納役および出納役を通じ、原則として最高7日間に限定されている。

なお、分任出納役には、とくに専任者を置く必要がある場合のほかは、駅にあっては駅長または助役、船舶・鉄道病院その他の厚生施設にあっては事務長または事務掛、車掌区・電務区にあっては助役または支区長、自動車営業所にあっては助役または支所長の職にある職員が、別に辞令を用いないでなるとなっている。

分任出納役は出納役と同様、日本国有鉄道法第48条の規定により、現金の支払および受領に関し、対外的には総裁を代理し、また同法第48条の2の規定により、分任出納役が善良な管理者の注意を怠り、その保管に係る現金を亡失し、国鉄に損害を与えたときは、総裁は当該分任出納役に対しその損害の弁償を命じなければならないこととなっている。(渡辺耕一)

ぶんばいべん 分配弁(空気ブレーキの) (英) distributing valve
 ブレーキ弁の支配を受け、機関車自身の自動ブレーキおよび単独ブレーキ作用をつかさどる米国ウェスチングハウス式の機関車用の一種の制御弁。弁部ならびに管取付座を兼ねた鋳鉄製の空気だめ部を有し、さらに弁部は作用部およびつりあい

2. 弁 部

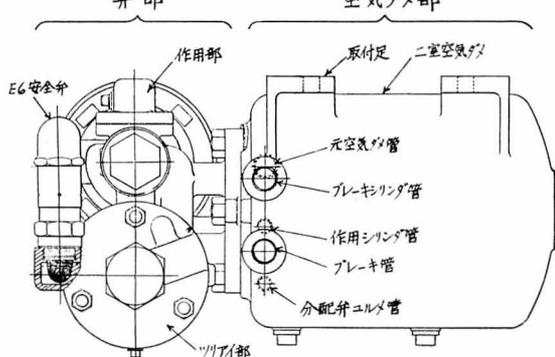


化は止る。ブレーキ弁で作用シリンダの空気を吐出して、作用シリンダ側が低圧となればふたたび左方に移動して吐出し弁を開いてブレーキシリンダを排気し、ブレーキシリンダ圧力は作用ピストン面、すなわち作用空気室圧力と同じになるよう元空気だめからの空気を自動的に給排する。したがってブレーキシリンダには作用シリンダとほとんど等圧の空気圧力を生じ、直接制御の場合とは異なり、ブレーキシリンダ側の漏れやブレーキシリンダピストン行程の伸びによる圧力降下は起らず、常に作用シリンダと等圧のブレーキシリンダ圧力を得ることができる。

つりあい部はつりあいピストン・つりあいすべり弁・度合弁および安全弁などをふくみ、主要作用は三動弁と同様で自動ブレーキが適用された場合に、ブレーキの基本的3作用であるゆるめおよびだめ・ブレーキ・ブレーキ重なりをつかさどる部分である。ただしこの場合は単独ブレーキ弁で作用シリンダを任意に給排できるため、つりあい部は階段ゆるめはできない。ゆるめおよびだめ位置ではブレーキ管が込められて、作用シリンダはゆるめ管を通じて排気されて前述のような作用をする。一方圧力空気室はブレーキ管からつりあい部シリンダ内壁にあるせまい込みみぞを経て圧力空気が込められる。

常用ブレーキ位置ではブレーキ管の減圧によってつりあいピストンを右に動かし、つりあいすべり弁その他の作用によって圧力空気室の空気を作用シリンダならびに作用空気室に膨脹させる(したがって圧力は低い)が、非常ブレーキ位置では圧力空気室の空気を作用空気室に入れることなく、作用シリンダのみ入れて、つりあい圧力を高めこの高い圧力を作用部で中継しブレーキシリンダに送り、ブレーキのききをよくしている。また自動ブレーキ位置による非常ブレーキ適用の場合、作用シリンダ管の圧力上昇を早めるとともに、作用シリンダ等の漏れによるつりあい圧力の低下を防ぐため、自動ブレーキ弁にある小穴から元空気だめの高圧空気を作用シリンダ管に導入する。この場合このままではブレーキシリンダ圧が異常に高くなり車輪滑走の原因となるので、この圧力が非常ブレーキ圧力(4.5kg/cm²)をこえないようにするため、この圧力に調整されたE6安全弁が設けられ、余分の圧力空気を外部に放出し、ブレーキシリンダ圧力を抑制する。またブレーキ重なり位置では圧力空気室の

1. 分配弁



部からなり、空気だめにガasketを介して直接取付けられ空気だめの各空気通路と連絡している。空気だめ部は2室空気だめと呼ばれ、その内部は隔壁で圧力空気室と作用空気室の2室に分れ、各配管を集中するとともに分配弁の管座ともなっている。

弁部のうち作用部は中継弁となっており、ピストン棒尾端に度合ばねをもった作用ピストン、ならびにピストンとともに動く作用弁と吐出し弁とを有している。作用は運転士の単独または自動ブレーキ弁ハンドルの取扱いにより単独ブレーキ弁から直接、または自動ブレーキ弁での減圧によるつりあい部の作用で間接に、空気だめ部圧力空気室の空気が作用シリンダに入って作用ピストンを右方に動かし、まず吐出し弁で吐出し口を閉じ、作用ピストン度合ばねを圧縮して作用ピストンを奥まで移動させ、同時に作用弁の通路から吐出し弁室を経て元空気だめの圧力空気をブレーキシリンダに導く。

作用シリンダの圧力上昇をとめると、ブレーキシリンダ側は元空気だめから給気中であるため、その圧力は上昇中であり、これが作用シリンダ圧より少しでも高くなると、ピストンはブレーキシリンダ圧および度合ばねの圧力によって押しもどされて作用シリンダ側に移動し、作用弁によって元空気だめよりの通路をしゃ断し「重なり位置」となり、ブレーキシリンダ圧力変